

## 生化学免疫検査に潜む反応異常とその対応

菅野 光俊

福島県立医科大学 保健科学部 臨床検査学科

臨床検査領域では、ある目的をもって検査がオーダーされるが、目的外、あるいは予想外の思わぬ結果に遭遇してしまうことがある。多くの場合「期待はずれ」の結果であり、このような状況に嵌ることをピットフォールと呼ぶ。ピットフォールに嵌った場合、主治医はもとより患者に迷惑がかかる危険性がある。そのため、ピットフォールの存在とその原因を理解し、ピットフォールに嵌ることが極力なくなるようにする必要がある。

異常データには病態変化を表す、基準範囲から大きく外れた値やパニック値をさす異常値と、病態変化と合致しない、患者試料に由来する異常値や分析上の問題に由来する異常値に大きく分けることができる。病態変化と合致しない異常値の場合は、その原因を追究し、直ぐに問題を解決できれば正しい結果を報告することができるが、そうでない場合は臨床に事情を説明後、結果を保留しその原因と正しい結果を得る方法を考える必要がある。患者試料に由来する異常値は、分析前工程に起因する場合と、試料そのものに起因する場合があります。分析上の問題に由来する異常値は、分析装置、試薬、標準液、管理試料に起因する場合があります。

正しい検査結果を返すには、異常データを発見することが重要になる。異常データの発見は、管理試料を用いた内部精度管理や、様々な個別データ管理、あるいは分析装置のエラーを契機に見つけることができる。内部精度管理状況、患者データのチェック、管理試料測定から大まかに切り分けを行うことができる。

本講演では、異常データの発生要因と発見方法、各施設でできる異常反応の確認方法と解析事例の紹介、困った時の相談窓口として、日本臨床化学会のピットフォール研究専門委員会の活動紹介を行う。